

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyl@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyl



授業を創る喜び

氷見市小学校長会 会長

氷見市立比美乃江小学校 校長 谷内口まゆみ

昭和58年4月、赴任先は阿尾小学校(現海峰小)でした。春の富山湾越しに眺める阿尾城跡の茶色い断崖。この風景が私の教員生活の原点です。亡き父の車に乗り、これから始まる暮らしに思いを膨らませました。振り返ると実に多くの学びがありました。学び続けた38年です。教え導いてくださった多くの方々や出会った子供たちには、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

学級担任の頃、郷土に学ぶことを大切にしていました。今も忘れられない授業(東部地区へき地教育研究大会)があります。「♪桜ウグイよ～おらっちゃんも昔はせせらぎ育ち…『善茂の松』見て歌うとた～♪」閉校間際の氷見市立岩瀬小学校で取り組んだ音楽科の授業です。当時、5・6年生13名の複式学級の担任でした。始まりは、校長室の扁額の裏から出てきた古ぼけた1枚の楽譜。幻の歌「せせらぎ」の発見でした。

昭和11年、当時岩瀬小に勤務されていた山本樹康氏が作詞・作曲された「せせらぎ」。そのメロディーのシンプルだけれど流れるような美しさに惹かれ、地域の風景を写した歌詞に惹かれ、子供たちと毎日口ずさむようになっていきました。歌詞に登場する「善茂の松」を探して一の島の山に登り、学校裏の上庄川に入って魚を捕まえ(子供たちの方が上手)、…そして山本樹康氏を探して論田まで出かけて話を聴き…。今思うとよくそんな時間があつたものです。しかし、子供たちと共にとことん教材に浸りきれ、そんな幸せな時代でもありました。

体験を通して感じた人々の思いや地域の姿を表していきました。川の流れを表現する子、地域の獅子舞を表現する子、夕焼けの美しさを表現する子、「善茂の松」の力強さを表現する子…。教材曲「ふるさと」+「せせらぎ」の音楽活動は、わくわくするものとなり、子供たちと共に「授業を創る喜び」を味わっていたのでした。

研究会当日、体育館には全国各地からの参観者が、私たちを幾重にも囲みました。ふるさと岩瀬の地に学び親しんだ子供たちは、感情豊かに表現していきます。ユーモアたっぷりのN君が奏でる和太鼓はお祭り気分。夕焼けを表すゆったりとした和音の響きにMさんの感性が生きています。跳ねる魚や水しぶきはシンバルや鈴の細かいリズム。リズム感抜群のZ君の出番です。その音色やリズム、旋律の一つ一つが、子供たちと体験を通して味わい、感じ取った豊かな音の世界でした。

授業終盤、子供たちの歌声に重なった参観者の大合唱…。体育館中に「ふるさと」が…「せせらぎ」が…そして子供たちオリジナルの音や旋律が響き渡りました。「音楽ってすばらしい！」文句なしに心から音楽に浸ったそんな瞬間でした。

その後、参観者(「ふるさと」の作詞者高野辰之氏の村)との交流が始まりました。手紙や写真に加え、長野産の真っ赤なリンゴや久目産の串柿等も…。

32年が経ちました。

郷土に学ぶ学習は、いつしか私のライフワークとなっていきました。「朝日山となかよし」「地域にアタック」「明和の雅楽」「ムクロジ学習」「民話劇」「屋敷三郎右衛門」「矢崎嘉十郎」「安部清」「食のふるさと」「郷土資料『ふるさと氷見』」の作成…。

最近ではネットですぐに情報が得られる時代です。また、時間的にも余裕のない毎日です。しかし、足で稼ぐ教材研究の大切さを決して忘れてはならないと思っています。教えて…教えられる、子供と共に新しい学びや発見にわくわくする…そんな「授業を創る喜び」を味わっていただきたいと願っています。

「授業づくり」は教職の醍醐味です。そのことが自分自身のやりがいにつながっていくならば、きっと多くの課題に立ち向かっていく強固な砦となっていくに違いありません。

ICT教育推進委員会

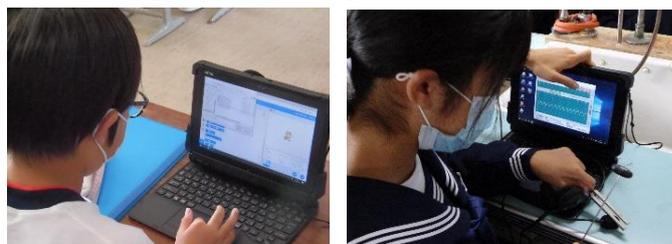
ICTの効果的な活用の推進を目指して

海峰小学校 教頭 坂田 和彦

ICT教育推進委員会は、各校1名ずつの14名で構成しました。ICTの効果的な活用を推進するために、次のことに取り組みました。

1 ICTの効果的な活用について考える研修会の開催

ICT協力推進校で「ICTを活用した授業づくり研修会」を行いました。北部中学校では、タブレットPCでデジタルオシロスコープを活用した音の学習（理科）を、灘浦小学校では、Scratchを使ったプログラミング学習（総合的な学習の時間）を公開し、学力向上のためにICTを効果的に活用した授業について研修を深めました。



〈Scratchでゲームづくり〉 〈音叉の音を視覚化〉

2 それぞれの学校における校内研修の活性化

GIGAスクール構想による児童生徒向けの一人1台端末を効果的に活用するためには、それぞれの学校での校内研修を充実させることが大切です。推進委員が集まって討議したり、Zoomを使って情報交換したりしながら、それぞれの学校の実態に合った校内研修について考えました。委員からは、「アンケートを取ってどんな研修を受けたかを掘み、ニーズに合った研修を行った（中学校）」「教職員がScratchを体験するなど、学校全体でプログラミング教育に取り組んだ（小学校）」など、それぞれの学校の実態に合わせて、工夫しながら研修に取り組んだことが報告されました。

外国語教育推進委員会

児童・生徒の英語力の向上を目指して

朝日丘小学校 教頭 西田由紀夫

外国語教育推進委員会では、小・中・義務教育学校の円滑な接続と外国語教育の充実を図るために、次のことに取り組みました。

1 ENGLISHセミナーの開催（12/25）

ふるさと教材「We Love HIMI!」の活用や、ALTや市内小中学生との交流を通して、「ふるさと氷見」のよさを再確認し、郷土愛を育むことを目指して実施しました。

セミナーの中で中学2年生・義務教育学校8年生が各中学校区の特徴を紹介する様子を動画にまとめ、「小中共同フォルダ」に保存しました。ぜひご視聴・ご活用ください。



〈生徒によるプレゼン〉

2 公開授業（湖南小）の実施（10/5）

湖南小学校、椿原先生の授業を全推進委員で参観しました。学習課題「友達の魅力が伝わるように『紹介カード』を作ろう」で実践された授業では、「Small Talkの中で『We Love HIMI!』を活用する」「尋ねたり答えたりする際に、配慮すべきことを自分事として意識付けるために、HRTとALTとのデモを通して子供たちに考えさせる」など、随所に工夫が見られました。また、授業後の学習カードによる振り返りを通して、子供たちは、自他の成長を感じ、充実感を味わいながら、次時への意欲を高めていました。

3 指導事例集の作成と配布

推進委員が指導実践した授業の指導案、小・中学校の年間指導計画及び評価（4技能・5領域）等をまとめた「指導事例集」を作成しました。後日、全小・中・義務教育学校に配布しますので、積極的にご活用ください。

令和2年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小・中・義務教育学校合わせて11編の個人やグループからの応募がありました。コロナ禍で、学習活動に様々な制約がある中、熱い思いをもって取り組んだ力作ばかりです。

広い視野で適正かつ公正な審査を行い、最優秀賞、優秀賞が選出されました。審査結果は下記のとおりでした。



[表彰式の様子]

| 賞 | 学校名 | 氏名 | 研究主題（副題を除く） |
|------|---------|---------|-------------------------------------|
| 最優秀賞 | 比美乃江小学校 | 大菱池 仁子 | 自分も友達も大切にし、よりよい生活や人間関係をつくろうとする子供の育成 |
| 優秀賞 | 朝日丘小学校 | 研究推進委員会 | 主体的に学習に取り組み、学び合う子供の育成 |
| 優秀賞 | 窪小学校 | 細口 泰葉 | 主体的・対話的に言語活動に取り組み、考えを深めていく子供の育成 |
| 優秀賞 | 灘浦小学校 | 小久保 亮佑 | 主体的に問題解決を図ろうとする自治的学級集団を目指して |
| 優良賞 | 比美乃江小学校 | 神代 真利亜 | 音楽に楽しんで関わり、自分の思いや意図をもって表現する子供の育成 |
| 優良賞 | 比美乃江小学校 | 小松 佳太 | 互いのよさを認め合える よりよい学級を目指して |
| 優良賞 | 宮田小学校 | 林 一学 | 主体的に考え、互いに関わる子供の育成 |
| 優良賞 | 湖南小学校 | 豊本 智絵 | 対話を通して「読む」楽しさを感じながら学びを深めていく子供の育成 |
| 優良賞 | 十二町小学校 | 平島 康裕 | 積極的に学びに向かう子供の育成 |
| 優良賞 | 南部中学校 | 三國 大輔 | 主体的に学習を進め、互いの考えを練り上げる生徒の育成 |
| 優良賞 | 西の杜学園 | 前田 翔太 | 社会的な事象の見方・考え方を働かせながら、主体的に学ぶ子供の育成 |

*優秀賞、優良賞はそれぞれ学校番号順に記載しています。



[実践発表の様子]

以上の審査結果を基に、去る2月10日（水）に教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。鎌仲教育長からの授賞の後、教育総合センターの澤武所長が講評を述べました。最後に、最優秀賞受賞者の比美乃江小学校 大菱池仁子教諭から、教育実践についての発表がありました。

詳細については当センター発行の「令和2年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

新規採用教員 — 1年を振り返って —

一人一人 違う色



窪小学校
富樫 阿子

私は、全く風邪をひかず、毎日元気に楽しく登校する小学生でした。今、おもしろそうなことにすぐ食い

付き、笑いの絶えない子供たちは、自分の姿と重なってみえます。初任者指導の先生から「クラスは担任の色で染まる」という指導をいただきましたが、その通りで、子供たちには私の長所も短所も染まっているようです。

年度当初、「こんなクラスにしたい」という目標は決めましたが、全員が同じ色、似た色になるのではなく、一人一人の違う色を大切にしながら、クラスとしてまとまっていけるよう、頑張っていかなければと感じています。個々の実態を正確に把握し、何を伸ばしどのように育ててほしいか、熱い思いをもって指導していける教師になりたいです。

気持ちを新たに



北部中学校
引谷 樹

新規採用教員としてのスタートは、コロナウイルスによる休校から幕をあけました。「こんなはずではなかったのに…」と落胆した気持ちに襲われたことは今でも覚えています。しかし、そんな気持ちも初めて生徒と過ごした1日で吹き飛んでしまいました。毎日生徒と会えること、授業で共に学ぶことに大きな喜びを感じました。

様々なことが制限・縮小された1年間でしたが、自分にとっては教員となって初めて出会う生徒と過ごした心に深く刻まれる大切な1年であったと感じています。

授業や生徒指導等、周りの先生方から学ぶべきことは多くあります。来年度も生徒たちのために今以上の向上心をもって、気持ちを新たに励みたいと思います。

生徒がいてこそ教師



西條中学校
瀬戸いずみ

昨年4月、これからの新たな日々に向けて胸を膨らませた私の前に、生徒の姿はありませんでした。

新型コロナウイルス感染症による休校やその影響で、何もかもが例年とは異なっており、休校が明けるまで正規の教員として採用された実感がなかなかもてませんでした。

しかし、そのような状況の中でも、変わらずあったのは生徒たちの成長でした。様々な大会や行事が中止・縮小を余儀なくされても、制限の中で生徒たちは「今、自分たちには何ができるのか」をしっかり考え、行動し、試行錯誤しながら学校生活を送っています。その姿に力をもらい、彼らのために何ができるのかを模索しながら行動する1年となりました。

まだまだ未熟な私ですが、次年度も生徒と共に成長していきたいです。

子供たちと共に学ぶ



西の杜学園
山田 風佳

採用されてからの1年間、明るく素直な子供たちや温かく支えてくださる先生方のおかげで、

充実した日々を過ごすことができました。子供同士が励まし合ったり協力し合ったりする姿や、目をきらきらと輝かせながら何かに真剣に取り組んでいる姿を見るととても嬉しい。このような場面に出会うたびに、子供たちと一緒に過ごすことができることの幸せや教師としてのやりがいを感じ、子供たちのために頑張ろうという気持ちが高まる。

また、後期課程の子供たちと関わることができることも、自分自身にとってもいい刺激になっている。

これからも多くのことを学び、子供たちと向き合い、寄り添いながら、子供たちと共に成長していきたい。